



その他今回計画において位置付けられた事項

船舶の物資補給需要等への対応

横須賀港は、入江が深く静穏な水域を有しており、荒天時における避難等に利用されています。また、港が市街地に近接しているという特徴から、東京湾を利用する船舶の休息や物資補給の需要があります。

このため、既存施設を有効に活用し、物資補給岸壁として利用します。

公共ふ頭确保安全かつ効率的運営

大型岸壁を有するとともに、中心市街に隣接するという新港地区は、今後、横須賀港が物流だけでなく、交流・レクリエーションに力を注ごうとしていることから、地区の特徴を活かし、港湾保安計画による外貿ふ頭の安全を確保しつつ、クルーズ客船の寄港やイベント等に対応し、安全かつ効率的な港湾運営を行います。

船舶の適正な収容

港湾内の適切な管理のため、船舶の放置等禁止区域を港内全域に広め、浦賀及び久里浜の静穏な水域を有効活用して簡易な係留保管施設を計画し、放置艇の収容を進めます。

利用形態の見直しの検討が必要な区域

浦賀地区の造船所跡地について、工業用地としての利用を見直し、行政・市民・事業者の協働によって検討された「浦賀港周辺地区再整備・事業化プラン」をもとに、産業遺産の保存、市民の憩いの場の確保等を視野にいたした再開発計画を検討するため、利用形態の見直しの検討が必要な区域としました。

将来の港湾整備を検討する区域

東京湾口部に位置する横須賀港は、船舶の輻輳する東京湾内を通過しないため、海上輸送時間の短縮ができます。この特徴を活かし、首都圏における内貿ユニットロード拠点の形成を図るため、既存航路の充実を支援するとともに、潜在する貨物需要を掘り起こし新規航路の誘致を進めていきます。このため、久里浜地区において将来の港湾整備を検討する区域を位置づけました。

横須賀港港湾環境計画

横須賀市では、港湾計画の環境施策をサポートするため、市民との協働により横須賀港港湾環境計画を策定しました。港湾計画と港湾環境計画が連携して、横須賀の財産である海の魅力の向上に努めます。



生きものを育む
アマモ場

